

# 平成 29 年度特別養護老人ホーム潮見台みどりの丘・みどりの丘

## 事業報告書

### I. 事業方針

高齢者人口の増加に伴い介護業界・福祉業界は拡大がつづいているが一方では福祉業界が抱える一番の課題は人材の確保・育成になる。厚生労働省は外国人が働きながら日本の技能を学ぶ「外国人技能実習制度」の対象職種を介護にも広げ介護現場で働く外国人の受け入れ方針が明らかにした。

みどりの丘でもベトナム人 3 人の受け入れの準備を始め受け入れをおこなったが課題も残った。また麻生区は介護福祉施設や有料老人ホームが多く存在し、どの施設も人材不足に陥っている。みどりの丘では人材確保のため日本人、外国人問わず介護を志す人の育成に力を注いだ。現在はフィリピン人など 6 名がスタッフとして働いき戦力になっているおり介護職の適正配置が維持できた。

今後も安心安全な介護を提供できる施設としてスタッフの確保と育成を最重要課題として捉えている。

### II. 事業目標

介護保険をまだ使っていない方のふれあいグリーンサロンから在宅生活を支える居宅介護支援事業所、通所介護、短期入所介護から在宅生活困難になった方の特養施設入所まで地域で暮らしている高齢者を支える施設として役割を果しその存在を確立するように努めた。

### III. 事業実施計画

#### (1) 介護老人福祉施設事業

##### ① 地域に選ばれる施設となること

- ・多床室は介護度が重い方の対応、ユニットは 24 時間シートの活用により個別ケアができるように各々の特徴を生かした介護に取り組んだ。

- ・三大介護の取組みにより安心・安全・安楽な介護が提供できることを目指した。
- ・クラブ・イベントの充実を図りみどりの丘の特徴となることができた。

② 魅力ある施設となること

- ・年間シフト表とチームワークにより休みの有効活用を行った。
- ・休みの有効活用で資格取得や外部研修に参加しやすい環境を作った。
- ・看取り介護の充実を図るため「芦花ホーム」の研修に各職種が参加した。

③ 入居エリアの拡大

- ・川崎市北部に位置するため横浜市青葉区、東京都世田谷からの申し込みもあり受け入れを行った。

④ 安定した入居と稼働率の93%を目指す

- ・入院者が稼働率を下げる大きな原因になっていたが29年度は体調管理と早期受診で入院者を年間延べ人数500人減少することができた。
- ・入院により空床が出た場合ショートとの連携により切れ目なく利用につないだ。

※空所利用と合わせた入居稼働率の目標は95%だったが99.8%の高稼働率の実現することができた。

(2) 短期入所生活介護事業

川崎北部地域では、今年度もショートステイを併設する特養が開設し前年度に引き継ぎき利用者の確保が厳しい状況となった。  
土日祭日の利用希望者が多く受け入れることで利用者の獲得に繋がった。

① 営業活動の強化

- ・毎月、地域のCMをお招きしてランチ会（見学会）を開催した。
- ・空床が出た場合、随時FAXで情報を発信した。

② 受け入れ体制の配備

- ・受け入れ窓口となる相談員を土日も含め常時配置した。
- ・医療依存度の高い利用者（在宅酸素、インシュリン、バルーン留置、透析通院者）などの受け入れも行った。

### ③ サービス内容の充実

- ・機能訓練となる体操やレクリエーションを日課として組み滞在中のレク活動の充実に力を入れた。
- ・利用者に対する接遇マナーに注意したが、一部の利用者からご注意を受けてこともあり課題が残った。
- ・三大介護の質の向上の取り組み安全な介護を目指した。

※目標稼働率 130%を上回り 133.7%の高稼働率をキープすることができた。

## (3) 通所介護事業

### ① 選ばれるデイサービス

- ・関係事業所、家族との連絡を行うことにより、きめ細かいサービス提供ができた。特に、家族の要望に対する情報提供ができるよう取り組んだ。
- ・各曜日の契約者数を常時把握し、事業所および家族ニーズに素早く対応できた。
- ・地域に向けての情報発信が、不足していた。

### ② 特徴ある、魅力あるサービスづくり

- ・入浴希望者が多くキャンセル待ちの状況である。サービスの質が低下しないように職員配置や利用者の案内の調整をしながら取り組んだ。
- ・介護予防につながる体操を取り入れ、レクリエーション等のプログラムも豊富になった。

※稼働率 86%は達成できなかったが 84%超の稼働率を継続的に維持できた。

## (4) 居宅介護支援事業所

- ・地域包括支援センターや地区の勉強会の参加など地域住民や他法人との関わりの中で、信頼関係が出来上がり選んで頂ける事業所となった。  
しかし宮前区が多く施設がある麻生区が少ない結果となった。
- ・一部の地域とは連携が取れるようになっているが、ひきつづき地域との連携が必要
- ・通所、ショートは繋ぐことができるが、在宅主流となっているため施設入所へは繋がっていた。

※ほぼ 100%の稼働率となり目標 90%はクリアできた。

(5) ふれあいグリーンサロンの継続開催

- ・地域の介護保険の認定を受けていない人を対象にしたサロンを月2回合計24回開催することができた。
- ・介護予防の視点から楽しみながらできる「いきいき予防体操」のプログラムは参加者に大変好評であった。
- ・看護師より日々の生活の中で役に立つ講話を毎回開催することができた。
- ・サロン終了後のラウンジを開放しコーヒー、紅茶を提供し友達づくりの場所の提供ができた。

IV.介護サービス指針

(1) 安全な三大介護を行う

介護の基本である「食事・入浴・排せつ」の三大介護を見直しながら介護職全員が確実にできるように新たに「ケア委員会」を開催した。今年度は排泄介助に力を注ぎ外部講師を招き講習会を開いた。

④ 認知症ケアへの取り組み

在宅生活が困難な認知症の方の入居も増えていくことが予想されるため認知症ケアの専門性を学びながら対応できる職員を育成するために外部研修や講習会に参加した。

(3) 入居者様に笑顔を

レクリエーションやイベントなどを企画し生活の中に楽しみを提供した。毎日のレクリエーションや外出レクはフロア毎に企画し行った。

(4) 美しい建物に負けない美しい接遇マナーを身につける

22年オープン時より「接遇美化委員会」を通して挨拶やマナーの大切さを継続的に取り組んできた。

ご家族様、来訪者の方より掃除が行き届き、挨拶ができているとの評価を受けることができた。

## V. 提供するサービス内容

### (1) 行事・イベント・カフェ計画・クラブ活動報告

4月	桜カフェ	4月16日
5月	端午の節句	5月5日
6月	開設記念日	6月1日
7月	七夕・流しソーメン	7月2日
8月	納涼祭	8月6日
9月	敬老会（川崎市長訪問） 敬老会コンサート	9月15日 9月18日
11月	100歳を祝う会（大道芸）	11月4日
12月	クリスマス会	12月25日
1月	初詣・新春カフェ	1月1、2日
2月	節分（お相撲さん）	2月3日
3月	お花見	3月25日～4月3日

### (2) クラブ実施報告

クラブ名	内 容	開催頻度
囲碁クラブ	初心者には入門教室があり、囲碁仲間が集まり碁を楽しむことができました。	毎週実施 (48回実施)
昭和歌謡クラブ	懐かしの昭和の歌謡曲を歌った。 声を出すことでストレス発散につながり 毎回多くの方が参加した。	月2回 (24回実施)
書道クラブ	① 筆を持って書を書く ② 季節に合わせた文字を描くことで	月1回 (6回実施)
料理クラブ	簡単なおやつを作った。感染予防の観点 があり回数は減った。	不定期 (3回実施)
いきいき 美容クラブ	美容部員の方と一緒に化粧を化粧品 の香りや化粧動作がリハビリにつなが った。	隔月 (5回実施)
手芸クラブ	日本の風習にちなんだ手芸品を作る	隔月 (6回実施)

## VI.職員研修計画と活動

### (1) 定例研修報告

実施月	研修内容	講師
4月	29年度事業計画の説明とモラル法令順守に関する研修	副施設長
5月	食中毒の予防および蔓延防止にかんする研修と事例検討	栄養士
6月	非常災害時の対応に関する研修（避難訓練）	防災委員会
7月	褥瘡対策に関する研修・看取りに関する研修	看護師
8月	事故の発生またはその再発防止に関する研修	事故防止委員会
9月	高齢者虐待防止と不適切ケアに関する研修	副施設長
10月	感染症の予防・蔓延防止に関する研修と事例検討	看護師
11月	非常災害時に対応に関する研修（通報訓練）	防災委員会
12月	認知症に関する研修	副施設長
1月	身体拘束などの排除の取り組みに関する研修	副施設長
2月	事故の発生またはその再発防止に関する研修	事故防止委員会
毎月	介護技術（各フロアー毎実施）	ケア委員会

定例研修は11回開催。1研修につき5～6回開催することで95%以上のスタッフが参加し研修内容を周知することができた。

### (3) 会議報告

会議	出席者	開催頻度	主催
定例会議	施設長、副施設長、課長 各専門職、介護リーダー	第1木曜日 (12回開催)	施設長
介護マネージャー 会議	施設長、副施設長、事務長 介護マネージャー	第4木曜日 (12回開催)	副施設長
給食会議	副施設長、事務長 給食業者、栄養士	毎月第4木曜日 (12回開催)	栄養士
フロアー会議	介護M、チーフ リーダー、介護スタッフ	月1回 (12回開催)	介護マネージャー 介護チーフ
専門職会議	介護M、フロアー看護師、 栄養士、機能訓練士、CM	週1回 (48回開催)	副施設長
カンファレンス サービス担当者会議	CM、介護課長、チーフ 居室担当者 栄養士、看護師、ご家族	随時	介護支援専門員

⑤ 各委員会報告

委員会	内容	開催日
納涼祭委員会	今年度は多床室2階が担当し「潮見神社」の夏祭りをコンセプトに実施、ご家族からも好評だった。	5月～7月 (6回開催)
ケア委員会	排泄：快適な紙おむつ、パットの導入をテーマに取り組んだ。	月1回 (7回開催)
接遇・美化委員会	挨拶の大切さ環境整備に取り組んだ。 委員会開催の回数が少なく浸透ができなかった。	隔月 (5回開催)
物品委員会	生活面の物品の発注と管理を行った。 フロア毎の管理に取り組んだ。	随時
入退所委員会	川崎市の指針に合わせた入居者選び、面談後に二次判定を行った。	1回/3ヵ月 (4回開催)
事故防止検討委員会	発生した事故事例検討と再発防止の話し合いを行った。報告書に評価を新たに加えた。	月1回 (12回開催)
感染対策委員会	夏の食中毒防止、冬のインフルエンザ、ノロウイルスなど感染症防止の啓発活動を行った。 発症なく防止することができた。	1回/3ヶ月 (4回開催)
身体拘束廃止委員会	尊厳ある生活をして頂くために身体拘束をしないことを施設全体として取り組みゼロを維持した。	月1回 (12回開催)
褥瘡予防委員会	ハイリスク者の把握する取り組みを行った。 予防のための計画の作成と評価を作成した。	月1回 (12回開催)